

2009/12/4

共催 日本山岳サーチアンドレスキュー研究機構  
日本山岳協会  
日本勤労者山岳連盟

「トムラウシ遭難事故を考える」シンポジウムの開催について

2009年7月16日大雪山系で10人もの登山者が低体温症で亡くなった。

特に、トムラウシに向かった18人のツアー登山パーティからは8人もの人々が犠牲となり、一般社会に大きな影響を与えた。当シンポジウムでは、事故の背景と原因を探ると共に、今後、二度と同じようなツアー登山事故を起こさないための事故対策など、様々な観点から議論していく予定である。

記

開催方法 パネリストによる講演と参加者との討論会

開催日時 2010年2月27日(土)  
13:00～18:00 (12:30開場)

会場 王子動物園ホール

場所 (神戸市の王子公園内、神戸登山研修所の西側)  
阪急電鉄 王子駅下車 徒歩5分

参加費 500円

問い合わせ先 青山 aoyama@res.kutc.kansai-u.ac.jp  
古賀 h-koga@viola.ocn.ne.jp

以上

## 「トムラウシ遭難事故を考える」シンポジウム (案)

——※注 以下タイトルはすべて仮題です ※

総合司会 古賀英年

13:00 黙祷

挨拶 内藤順造 (日本山岳協会副会長・専務理事)

13:10---13:25 I. 戸田氏による「トムラウシからの生還」 (15分)

13:25---15:30 II. トムラウシ遭難事故の原因と背景について

座長 村越真 {8人×15分(発表12分、質疑3分) = 2時間}

- ① (報道側から見た) トムラウシ山岳遭難事故の外観と推移  
岩城史枝 (岳人編集部)
- ② 山岳遭難事故におけるトムラウシ問題の位置づけ  
青山千彰 (IMSAR-J 会長)
- ③ 北海道大雪山系における遭難事故時の気象状況  
城所邦夫 (元気象庁山岳部・山岳気象アドバイザー)
- ④ トムラウシにおける低体温症について  
船木上総 (苫小牧東病院副院長)
- ⑤ マスコミの問いに対する、登山専門旅行会社の見解  
黒川 恵氏 (アルパインツアーサービス株式会社代表取締役)
- ⑥ ガイドの意思決定のあり方について  
磯野剛太 ((社) 日本山岳ガイド協会 専務理事)
- ⑦ トムラウシ遭難事故の法的問題  
溝手康史 (弁護士)
- ⑧ 山岳団体から見たトムラウシ問題  
西内博 (日本山岳協会遭難対策委員長)

15:30---15:40 休憩

—— 後半の部； 8人のパネリストと、会場の参加者との共同討議 ——

IIIIV座長 青山千彰

15:40---16:40 III. 事故の原因と問題点に関する総合討議

16:40---17:30 IV. ツアー登山における遭難事故防止のあり方について

17:30 挨拶 井芹昌二 (日本勤労者山岳連盟副理事長・遭難対策部長)